

# 17) 心臓血管外科

## 1. 診療体制と患者構成

- 1) 診療科スタッフ（講師以上）  
窪田 博（教授、診療科長）  
布川 雅雄（臨床教授）  
細井 温（准教授）  
遠藤 英仁（講師）  
石井 光（講師）
- 2) 常勤医師数、非常勤医師数  
常勤医師数 13名  
非常勤医師数 7名
- 3) 指導医数、専門医・認定医数  
日本外科学会指導医 3名  
日本外科学会専門医 10名  
日本心臓血管外科学会専門医 6名
- 4) 外来診療の実績
  - 外来診療の実績  
延べ患者数 10503例  
新患患者数 1036例
- 5) 入院診療の実績
  - 入院診療の実績

### 主要疾患の手術成績

手術名	症例数	死亡患者数 (%)
冠動脈バイパス術（救急）	19例	1例 (5.2%)
冠動脈バイパス術（定時）	13例	0例 (0%)
弁膜症手術	24例	2例 (8.3%)
胸部大動脈手術（人工血管置換術）	41例	3例 (7.3%)
胸部大動脈手術（ステントグラフト）	9例	0例 (0%)
腹部大動脈手術（人工血管置換術）	19例	0例 (0%)
腹部大動脈手術（ステントグラフト）	23例	1例 (4.3%)
末梢動脈バイパス術	22例	0例 (0%)
末梢動脈血管内治療	53例	1例 (1.8%)

## 2. 先進医療への取り組み

### ① スtentグラフト治療術

専門医により、胸部・腹部大動脈瘤に対してステントグラフトをカテーテルで血管内に挿入し破裂予防の治療を行っている。

### ② 心房細動治療のための肺静脈隔離術

心臓手術時、メイズ手術の変法として肺静脈を外膜側より冷凍凝固またはラジオ波により電氣的に隔離し、心房細動の治療を行っている。

尚、本法をポートアクセスで行うことを研究中である。

- ③ 低侵襲冠動脈バイパス術  
人工心肺使用心拍動下にバイパス術を施行している。またバイパス用代用血管として使用する大伏在静脈の採取を、内視鏡下で小切開下に採取するためのトレーニングを実施中である。
- ④ 人工血管使用血液透析用内シャント術  
新しい人工血管による上肢中枢側での内シャント作成術を行っている。
- ⑤ 冠動脈バイパス自動吻合器  
大伏在静脈の中枢側と上行大動脈の吻合を器械により自動的に行っている。
- ⑥ 血管内治療（IVR）  
閉塞性動脈硬化症または静脈閉塞(狭窄)症例に対し、バルーンつきカテーテルや、ステント挿入による拡張術を施行している。

### 3. 低侵襲医療の施行項目と施行例数

- ① 大動脈瘤ステントグラフト治療  
胸部大動脈（下行）および腹部大動脈瘤に対して、大腿部の小切開によるステントグラフト治療を行っている。  
例数：胸部大動脈瘤 9例 腹部大動脈 23例
- ② 低侵襲冠動脈バイパス術  
人工心肺を使用しつつ心拍動下にバイパス（ONBCAB）を積極的に施行している。体外循環を用いつつ、脳梗塞の合併症を回避し、早期退院も可能である。グラフトの開存率も良好である。  
例数 32例
- ③ 自動吻合器を使用した冠動脈バイパス中枢側吻合  
大伏在静脈を大動脈に吻合している。簡便迅速であるのみならず、大動脈の部分遮断をする必要がなく、大動脈壁のデブリによる脳梗塞の合併症を予防することが出来る。  
例数 32例
- ④ 冠動脈バイパス術後MDCTによるグラフト血流評価  
従来、侵襲性の検査である冠動脈造影（CAG）を行っていたが、非侵襲性の検査で評価可能となった。  
例数 32例

### 4. 地域への貢献

多摩地区にある心臓外科・血管外科の施設と協調し、多摩心臓外科学会を毎年主催している。また、症例発表会、講演会、情報交換会を施行することにより施設間の交流を密にし、地域の診療レベルの向上を図るとともに、地域住民の健康増進に貢献すべく活動を行っている。さらに大動脈救急疾患の受け入れ体制に関し、消防庁とも連携し、多摩地区病院のネットワーク作りを行い、東京都CCU大動脈ネットワークにおける重要拠点病院としての責務を果たすべく24時間緊急即応体制を維持している。